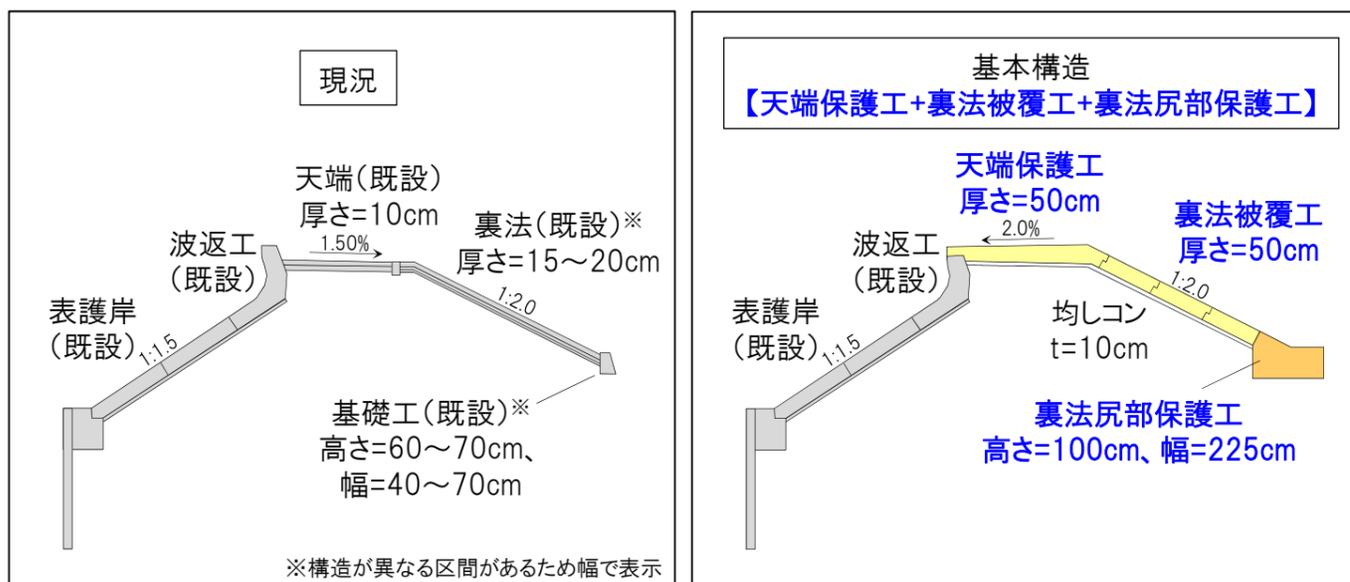


< 「粘り強い構造の海岸堤防」の基本構造 >

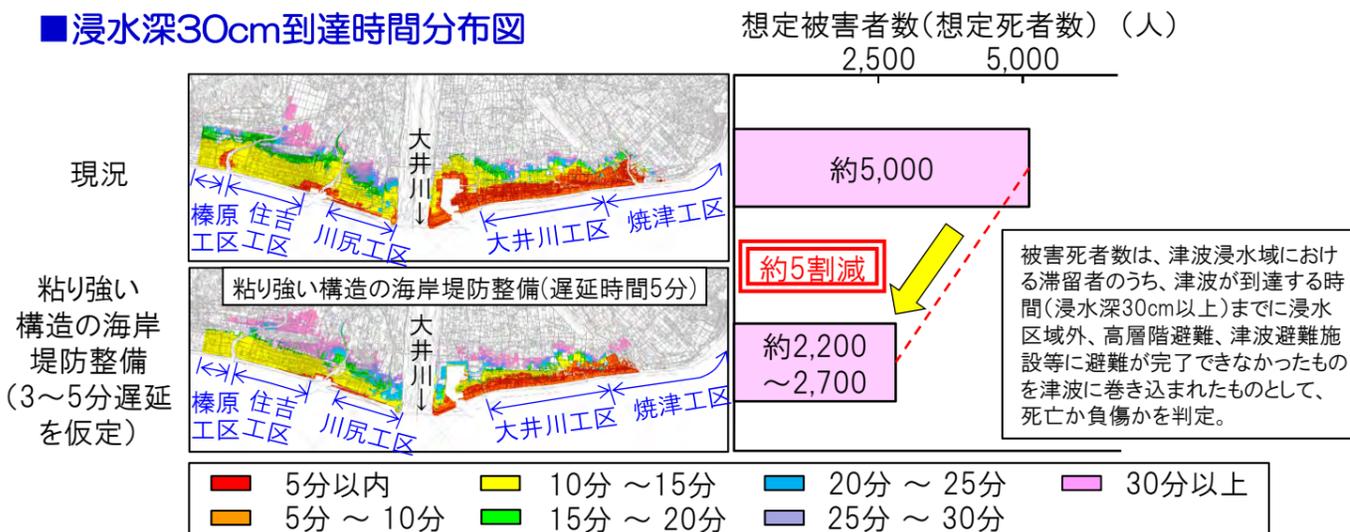
第3回駿河海岸保全検討委員会（H28.9.27開催）において、駿河海岸における「粘り強い構造の海岸堤防」の構造について、実験結果等から議論いただき、下図を基本構造としました。



< 被害の軽減効果（被害者数） >

南海トラフ巨大地震が発生し、津波が来襲した場合、津波による想定被害者数は約5,000人と想定されますが、「粘り強い構造の海岸堤防」を整備することで、約2,200人までに低減することが期待されます。

■ 浸水深30cm到達時間分布図



これまでの検討経緯は、静岡河川事務所のホームページよりご覧いただけます。

< 駿河海岸整備検討会 >

http://www.cbr.mlit.go.jp/shizukawa/03_kaigan/07_iinkai/seibi/index.html

< 駿河海岸保全検討委員会 >

http://www.cbr.mlit.go.jp/shizukawa/03_kaigan/07_iinkai/hozen/index.html



国土交通省 中部地方整備局 静岡河川事務所 海岸課
 〒420-0068 静岡市葵区田町3-108 TEL: 054-273-9103
 事務所ホームページ <http://www.cbr.mlit.go.jp/shizukawa/>

Ver1.0(H28.9)

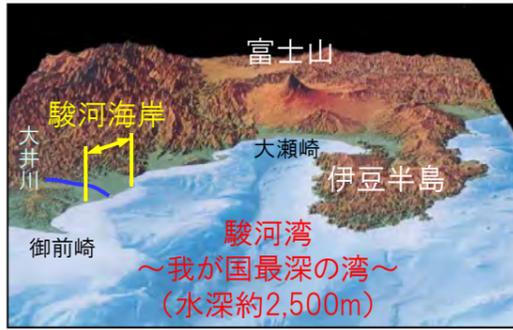
【駿河海岸直轄海岸保全施設整備事業】 ~ 粘り強い構造の海岸堤防 ~



国土交通省 中部地方整備局 静岡河川事務所

<駿河海岸直轄海岸保全施設整備事業>

駿河湾の西側に位置する駿河海岸は、地形的な特徴から高波が異常に発達し過去から甚大な被害を被っており、また、近年では沿岸漂砂量の減少等により海岸侵食が進んでいることから、海岸保全施設の整備を進めています。



計画区間	静岡県焼津市田尻北地先～牧之原市細江地先
計画延長	駿河海岸 12.1km



昭和41年9月台風26号 高波・浸水により被災した家屋(焼津工区田尻地先)

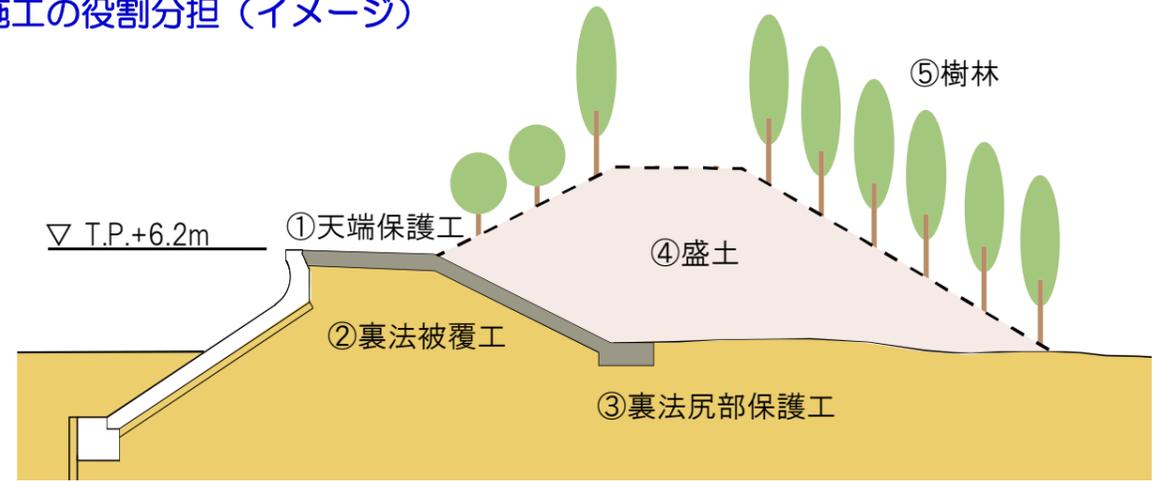


平成9年9月台風20号 越波による浸水(焼津工区一色地先)

<駿河海岸の海岸保全のあり方>

駿河海岸では、国、県、市町からなる「駿河海岸整備検討会」を設立し、最大クラスとなる地震・津波に対する被害の軽減を図るために「粘り強い構造の海岸堤防」を含めた海岸保全のあり方(平成27年8月24日)をとりまとめ公表し、地域全体が役割分担をもって減災に向けた取り組みを推進することとしました。

■施工の役割分担(イメージ)



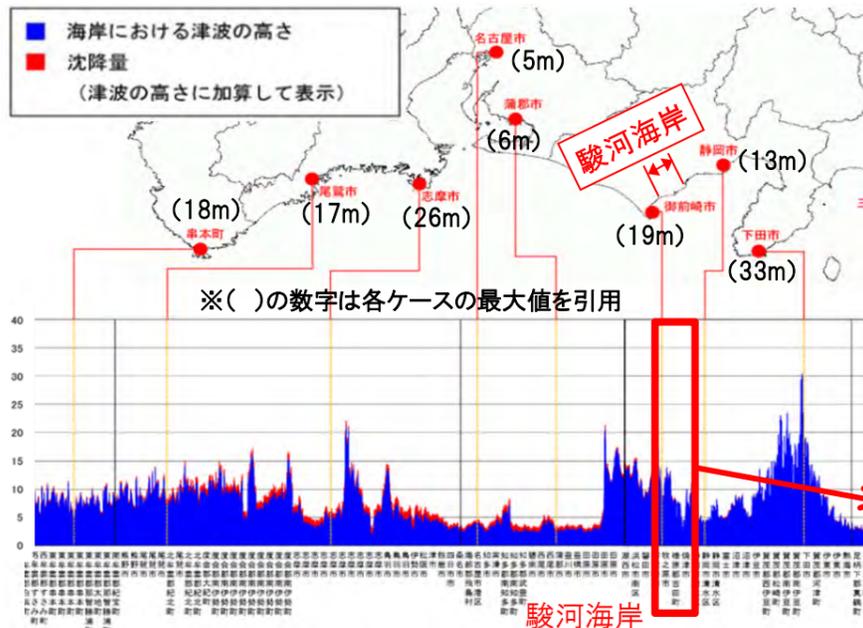
①天端保護工、②裏法被覆工、③裏法尻部保護工	国の海岸事業により実施	
④盛土	(現況堤防高まで)	国の事業により実施(国の事業で発生する土砂を有効活用)
	(現況堤防高以上)	市町により実施(国・県・盛土材調達支援)
⑤樹林	市町により実施	

<駿河海岸における津波対策の必要性>

駿河海岸は、津波到達時間が早く、避難可能な時間が短いため、L1津波を超える津波が発生した場合でも減災効果を発現させる必要があります。

このため、駿河海岸を含む駿河湾沿岸では、平成26年7月に「駿河湾沿岸海岸保全基本計画」(静岡県策定)が変更され、L1津波を超える津波に対して「粘り強い構造の海岸堤防」が新たに位置付けられました。

■南海トラフの巨大地震による津波高(L2津波高)

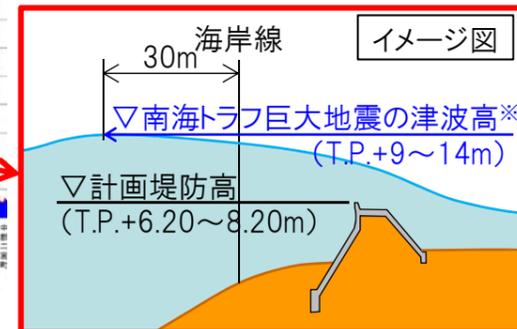


関係市町の津波高(T.P.)※

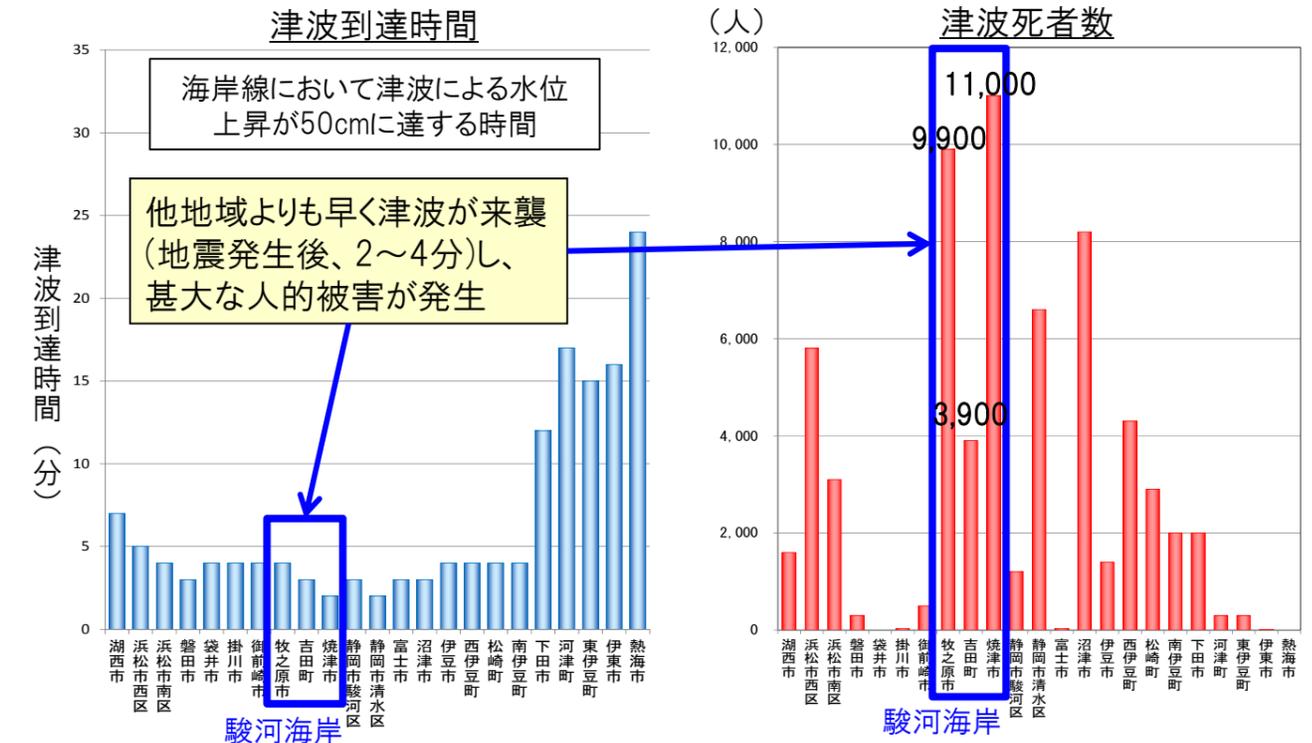
焼津市	11m
吉田町	9m
牧之原市	14m

※市町全体(駿河海岸以外も含む)の最大津波高

駿河海岸では現況堤防高を超える津波が来襲する恐れ



※津波高は海岸線から沖合30m地点における海面の高さ



出典:静岡県第4次地震被害想定(H25.6.27)「南海トラフケース①、冬・深夜、早期避難率高+呼びかけのケース」

【参考】L1津波:比較的発生頻度の高い津波(最大クラスの津波に比べて発生頻度は高く、津波高は低いものの大きな被害をもたらす津波(数十年から百数十年の頻度)) L2津波:最大クラスの津波(発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす津波)